

# 福知山市スポーツ推進計画 概要版

## 第1章 中間評価及び見直しにあたって

### 1.見直しの趣旨

「福知山市スポーツ推進計画」の策定後、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なスポーツ活動が中止や延期を余儀なくされました。

そのような中、本市においては、福知山マラソンのオンライン開催をはじめ、コロナ禍におけるスポーツ活動の実施に取り組むとともに「まちづくり構想 福知山」に掲げたアクティブシティの実現に向けた取り組みなどに新たに着手しました。「福知山市スポーツ推進計画」に掲げたスポーツ施策を推進するため、策定から5年が経過した本年に計画の取組状況について、中間評価を行い、今後の課題や方向性を見直すこととしました。

### 2.計画の位置づけ

健康増進や競技力向上のため、あらゆる場面で、運動やスポーツを始め、継続していくことが重要であることから、『「する」「みる」「ささえる」—はじめる・つづける—スポーツの推進』を中間評価及び見直し後の本計画の理念として、「市民のスポーツによる交流の促進とスポーツを通じた市民力と地域力の向上」を目指す将来像の実現に向けた施策を展開します。

福知山市スポーツ推進計画の理念  
「する」「みる」「ささえる」—はじめる・つづける—  
スポーツの推進

本市の目指す将来像  
スポーツによる交流促進と市民力・地域力の向上

### 施策の展開

**基本目標1** 生涯スポーツの振興

(ライフステージに応じたスポーツ活動の推進)

**基本目標2** 競技スポーツの振興(競技力の向上・指導者の育成・郷土愛を育む選手育成)

**基本目標3** スポーツ施設の充実・整備(施設の機能集約と効率的な整備)

### 3.計画の期間

令和元(2019)年度から令和10(2028)年度までの10年間の計画とします。

ただし、今後の社会情勢の変化や福知山市の財政状況を勘案し必要に応じて見直しをするものとします。

### 4.本計画におけるスポーツの定義

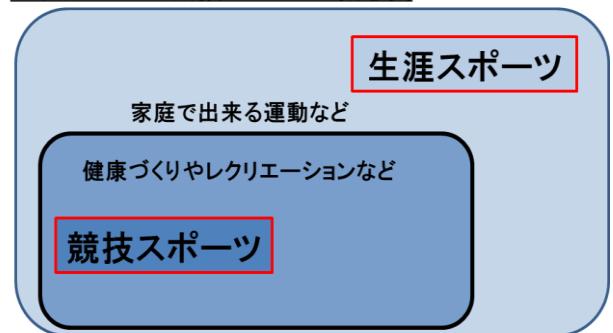
本計画では、「スポーツ」の定義を勝敗や競うことを目的ではなく、健康づくりのための軽度な運動も「スポーツ」と位置付けています。

また、「する」だけではなく「みる」「ささえる」こともスポーツとしてとらえています。

さらに、「生涯スポーツ」と「競技スポーツ」に区分し、「生涯スポーツ」は健康づくりのような誰でも気軽に楽し

いる選手(競技者)や団体の活動など、特定の期間において競技力や技術力、記録の向上を目指す取り組みとして定義しています。

### 生涯スポーツと競技スポーツの概念図



### 5.福知山市スポーツ推進計画の理念

性別や年齢、障害の有無などを問わず、広く市民が関心を持ち、適性などに応じてスポーツに取り組むことができる環境を整備し、「する」「みる」「ささえる」—はじめる・つづける— ことのできるスポーツ活動を推進します。

### 6.計画の中間評価・見直しの方法

- (1)市民アンケート調査の実施
- (2)庁内ヒアリングの実施
- (3)アクションプランの作成
- (4)福知山市スポーツ推進計画意見聴取会(フォローアップ会議)への意見聴取

## 第2章 福知山市の現状と課題

### 1.国の動向

近年、少子高齢化や人口減少など、年齢構成や社会構造の変化、ライフスタイルの多様化などにより社会環境は大きく変化しており、スポーツに求められる価値もますます広がりを見せており、スポーツを通じて人々のきずなを深めていく取り組みも必要となってきました。

このような中、国においては、令和4(2022)年に新たな3つの視点「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」を支える施策を展開することとしている「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。

### 2.京都府の動向

京都府では、「障害スポーツの推進」「子どもスポーツの充実」「競技スポーツの充実」「施設の充実をスポーツ推進における基本的な視点とした「京都府スポーツ推進計画」(平成26(2014)年度～令和5(2023)年度)が策定され、平成31(2019)年に計画期間前半の成果や課題を明らかにしたうえで、計画期間後半に必要な施策が盛り込まれた改訂が行われました。

「京都府スポーツ推進計画」の成果や課題を踏まえ、「第2期京都府スポーツ推進計画」(令和6(2024)年度～令和16(2034)年度)が策定されました。

### 3.福知山市の現状

(1)福知山市の概況

(2)福知山市の人口

(3)福知山市のスポーツ施策

【令和元(2019)年度～令和5(2023)年度】

新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのスポーツ大会が中止や延期となりましたが、令和5年5月に感染症法上の5類移行後、多くの大会が再開しました。福知山市では、令和3年度に「アクティブシティ」実現のため「アクティブシティ推進市民会議」を設立し、スポーツ活動を促進しています。令和4年には「部活動改革推進期間」に伴い「部活動の地域移行ロードマップ」を作成し、令和5年に「中学校部活動地域移行検討事業」を開始、サッカーとソフトボールのモデル事業を実施しています。

(4)福知山市のスポーツ施設

【令和元(2019)年度～令和5(2023)年度】

福知山市では、学校体育施設を含む77箇所のスポーツ施設があり、これらは大会や地域交流の拠点、防災拠点としても利用されています。しかし、多くの施設が老朽化しており改修や更新が求められています。今後のスポーツ施設の整備にあたっては、スポーツ施設としての機能以外の活用についても公共施設マネジメントや防災拠点としての視点などからも検討したうえで、必要な整備や長寿命化、機能統合などに加え、施設を適正に維持管理し、市民が継続的に利用できる環境を整備することとしています。

①スポーツ施設数

【主要スポーツ拠点】 主要競技施設12施設  
[H30計画策定時14施設]

・三段池公園  
総合体育館(メイン・サブアリーナ)  
武道館(剣道場・柔道場)  
テニスコート、多目的グラウンド

・長田野公園  
体育館、野球場、庭球場

・市民運動場周辺  
体育館、野球場、弓道場

【地域交流拠点】 小規模スポーツ施設65施設  
[H30計画策定時77施設]

・地域スポーツ施設(43施設)  
[H30計画策定時45施設]

・学校体育施設(22施設)  
[H30計画策定時32施設]

### 5.福知山市の課題

令和5年度のスポーツ関与率目標は57%でしたが、実績は44.2%でした。家族と運動する習慣が増え、市民の運動への興味は高いままです。スポーツボランティアには消極的な傾向があり、健康増進や地域活性化への期待が見られます。これを基にスポーツ施策を展開します。

## 第3章 施策の展開

基本目標1 生涯スポーツの振興 →裏面参照

基本目標2 競技スポーツの振興 →裏面参照

基本目標3 スポーツ施設の充実・整備

(1)スポーツ施設の充実・整備

多くのスポーツ施設を有する本市において、身近な場所で、さまざまなスポーツに対応できる施設環境を整える仕組みが重要となります。

(2)《主要スポーツ拠点》(主要競技施設)の  
今後の整備と管理運営の方向性

主要スポーツ拠点として位置付けた施設は、機能の保全をしつつ機能集約についても検討し、適正な再配置を行います。管理運営にあたっては、施設のハード・ソフト両面から効果的な管理体制に見直し、更なる民間活力の活用や官民協働の手法により、施設の稼働率の向上と市民の利便性の向上を目指します。

①体育館

三段池公園総合体育館:スポーツやイベント、防災拠点。設備整備を推進します。  
長田野公園体育館・市民体育館:老朽化がすすんでいるため、新たな体育館整備に向けて検討します。

②テニスコート

三段池科研電機テニスコート:20面に増設。大会推進。ネーミングライツ活用。  
長田野公園テニスコート:現状維持。

③野球場

三段池RAVIHOUSEフィールド:多目的グラウンド。現状維持。ネーミングライツ活用。  
長田野公園野球場:ナイター設備あり。現状維持。  
SECカーボンスタジアム:LEDスコアボード設置。機能強化検討。ネーミングライツ活用。

④その他

温水プール:老朽化で閉鎖。民間事業者が新プール運営開始。  
武道館:多目的利用。現状維持。  
市民運動場(弓道場):老朽化が進んでいるため、整備中。  
陸上競技場(サッカー場):現在中丹地域には全天候型陸上競技場がないことを踏まえ、荒河調整池の整備に伴い、新競技場整備準備。

(3)《地域交流拠点》(小規模スポーツ施設)の  
今後の方向性

本市には、小規模なスポーツ施設等のスポーツ目的だけでなく、地域の交流、防災などとして機能している施設があります。閉校となった学校の体育館やグラウンドを民間譲渡や貸し付けにより活用している施設もあります。

同一地域にこうした複数のスポーツ施設が存在する場合は、施設の必要性や管理運営の方針などを、地域ごとに機能統合や整備の方針を検討します。

# 第4章 計画の推進に向けて

## 1.計画の推進体制

福知山市スポーツ推進計画の計画期間前半の本市のスポーツ施策は、市民アンケートや、施設利用者数等から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による大きな影響を受けたことが明らかとなりました。

このような状況の中、「スポーツによる交流促進と市民力・地域力の向上」を目指す本計画の実現に向けて、市民、関係機関、関係団体、市が連携、協働しながら一体となって進めていくことが重要であることから、福知山市ホームページなどにおいて本計画の周知を図るとともに、それぞれの役割などを認識し、連携、協働をより一層強め、計画の実現に向けた取り組みを推進します。

さらに、国や府のスポーツ施策の状況、本市の最上位計画である「まちづくり構想 福知山」に基づくスポーツ施策、関連計画の施策や事業の進捗状況などとの整合を図り、本計画に定める施策の円滑な実施に努めます。

なお、計画の推進にあたっては、既に取り組んでいるネーミングライツ(施設の命名権)制度やふるさと納税制度等の活用に加え、民間資金やノウハウの活用をはじめとしたあらゆる財源確保を検討し取り組みます

また、市民のスポーツ機会をより一層充実させるため、対象に応じた媒体を活用した情報発信に積極的に取り組みます。

## 2.計画の進行管理

本計画の進行管理にあたっては、目標計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)の4段階を繰り返すことによる「PDCAサイクル」の考え方を基本とし、事業の継続的な改善を図ります。

なお、本計画の進捗状況の検証、評価にあたっては、計画で掲げた基本目標を達成するための具体的な実施計画(アクションプラン)を定め、外部委員を含めたスポーツ推進計画フォローアップ会議などにおいて、施策の実施状況や数値目標などを点検・評価し、計画の適切な進行管理を行います。



## 基本目標1 生涯スポーツ施策の方向性体系図

### (1)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

年代による生活やニーズの変化に対応してライフステージに応じたスポーツ活動を推進する必要があります。

### (2)スポーツによる健康で活力あるまちづくり

誰もが生涯にわたり健康で主体的な生き方ができるように、いつでもスポーツをはじめ、いつでも継続できるスポーツの展開を図ります。

### (3)アクティブに人生を歩めるいきがづくり

「アクティブシティ」の実現のために、幅広い世代に向けて、日常的に身体活動に取り組むための環境づくりを進めています。

### (4)中学校の部活動地域移行の推進

スポーツ活動の機会を確保・充実させることをめざし、部活動から地域クラブ活動へと段階的に移行を進めていきます。

## 目標数値

### スポーツ関与率

平成30年度(2018)

36%

令和5年度(2023)

44%

令和10年度(2028)

60%

スポーツ関与率とは、競技スポーツだけでなく健康づくりやレクリエーションとしての運動や、さらには通勤や買い物や徒歩に変わるなど心身の健康増進を目的に行う身体活動などを1週間に1回以上行った割合とする。

## 現状

## 今後の展開

する

**はじめる**

- 誰もが気軽にスポーツに参加できる環境整備
- スポーツを通じた健康の維持や仲間づくりの機会の充実
- 継続した運動を全くしていない人の割合55.8%
- スポーツに触れる機会を増やす効果的な情報提供や情報発信の不足
- スポーツ少年団の入団率の低下
- 子どもがスポーツをしたくても、活動場所が遠方
- スポーツ施設の利用状況や地域のスポーツ活動についての情報不足
- スポーツ施策に必要なもの「様々なスポーツを体験し、市民が自分に合ったスポーツを見つけられるようにスポーツ教室を開く」41.7%

- 年代やライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
- スポーツ協会やスポーツ少年団、スポーツ推進委員などのスポーツ団体との連携強化
- 障害者のスポーツ活動の支援
- 高齢者のスポーツ参加の支援(福祉分野とも連携した健康寿命延伸の取組み)
- スポーツ少年団への支援
- 子どものスポーツの充実
- スポーツ教室の充実
- スポーツ団体と連携したスポーツ活動の場の情報提供(ホームページの充実やSNSの活用など)
- 大規模商業施設等でのイベント開催
- アプリによるウォーキングの動機付け
- 木育や環境教育を一体とした子ども向けトレイルラン教室の開催

みる

**つづける**

- スポーツを続けることができる環境の整備
- 継続的にスポーツを行うことができる機会の創出
- スポーツ施策に必要なもの「スポーツ推進委員などによる地域団体などへの指導者派遣」12.5%

- 部活動地域移行の検討・推進
- スポーツ少年団への支援
- スポーツ推進委員との連携・支援
- 1日の歩数をあと1000歩増やす取組み

やめる

**はじめる**

- 全国大会の誘致、トップアスリートを見る機会の確保
- ワールドマスターズゲームズ2027関西の低い認知度

- トップアスリートとの交流の機会創出
- 全国規模の競技大会の積極的な誘致

**つづける**

- スポーツ大会やイベント情報の不足

- 市民への充実したスポーツ関連情報の提供

**はじめる**

- 障害者スポーツに対する低い認知度
- 子どもと地域の高齢者や障害者、地域の住民との少ない交流
- 優秀な指導者の確保が必要
- 学校の部活動における十分なスポーツニーズへの対応
- スポーツボランティアの不足

- 障害者スポーツの機会づくり
- 障害者スポーツ普及の環境づくり(施設のバリアフリー化)
- 中学校運動部活動などの充実と地域移行での支援
- 指導者の育成、支援
  - スポーツ指導者の発掘育成
  - スポーツ推進委員の活用、支援
  - スポーツ指導者育成講習会の実施
- スポーツボランティアの育成、支援

**つづける**

- スポーツ団体を維持管理していくための体制の充実

- 指導者の育成、支援
  - スポーツ指導者の発掘育成
  - スポーツ推進委員の支援
  - スポーツ指導者育成講習会の実施
- スポーツボランティアの育成、支援

## 現状

## 今後の展開

する

**はじめる**

- 全国・世界で通用するトップアスリートの育成
- スポーツによる活性化に必要なもの「選手の競技力向上による全国大会などへの出場」16.2%
- スポーツで技術を磨き、トップアスリートへ

- スポーツ協会及び加盟団体との連携
- トップアスリート育成
- 障害者アスリートの育成
- スポーツ賞の充実
- スポーツ少年団などによる活動後、各年齢期において引き続き技術力の向上に繋がる組織体制の構築
- ジュニア選手の発掘、育成
- スポーツ教室の充実

**つづける**

- スポーツを続けることが出来る環境の整備

- トップアスリートに触れる機会の創出
- 優秀な指導者の確保、育成
- 指導者等によるパワーハラスメント根絶

みる

**はじめる**

- 競技大会の充実・大規模大会の誘致、競技団体が主催する各種競技会の拡充
- スポーツを通じた福知山市の活性化に必要なもの「大規模な大会やプロフェッショナルスポーツの誘致」33.3%
- ワールドマスターズゲームズ2027関西の認知「知らなかった」76.1%

- トップレベルの競技を「みる」機会の創出
- 全国規模の競技大会の積極的な誘致

**つづける**

- スポーツ大会やイベント情報の不足

- 市民への充実したスポーツ関連情報の提供

やめる

**はじめる**

- 指導者や担手の育成や資質の向上
- 「過去1年スポーツボランティアに関わったことがある」4.6%
- スポーツにおける暴力行為の根絶及び旧態依然とした指導方法からの脱却
- 障害者スポーツに対する少ない理解
- 「障害者スポーツに参加、観戦したことがある」8.1%
- 「大会スタッフとして関わったことがある」2.8%

- 競技団体や学校などと連携し指導方法などの情報提供
- 科学的なエビデンスに基づく練習方法の情報提供
- 指導者・スポーツボランティアの育成、支援
- 障害者アスリートへの支援

**つづける**

- 指導者や担手の育成や資質の向上

- 指導者・スポーツボランティアの育成、支援

## 目標数値

### 全国大会等出場選手・団体件数

平成30年度(2018)

100件

令和4年度(2022)

59件

令和10年度(2028)

180件

## 基本目標2 競技スポーツ施策の方向性体系図

### (1)スポーツの競技力向上に向けた取り組みの推進

スポーツの振興による市民の健康増進や社会的つながりの強化が重要視されています。

地域のトップアスリートが活躍することで市民に夢や感動を与え、スポーツの関心と参加意欲の向上が期待されています。トップアスリートを招へいし質の高い競技に触れる環境を整備して、競技技術の向上や競技人口の増加を図るため競技スポーツを推進します。

競技スポーツをはじめとした、あらゆるスポーツ活動においては、スポーツ嫌いの要因となる暴力行為を根絶しなければいけません。パワーハラスメントを根絶するとともに、特に子どもたちへの指導については旧態依然とした指導方法を改め「スポーツは楽しい」と感じ、心から楽しめるスポーツとして取り組んでいくことが最も重要であり、講習などを通じて引き続き啓発を進めていきます。